

目次

第29回大会開催にあたって・・・1	自由報告のセッション紹介・・・5
第29回大会をお受けするにあたって ・・・1	大会プログラム・・・6
開催校企画シンポジウム・・・3	新入会員の声・・・13
学会企画シンポジウム・・・4	事務局からのお願い・・・15

■日中社会学会第29回大会開催にあたって

日中社会学会長
首藤明和（長崎大学）

日中社会学会第29回大会が6月3日と4日、大阪大学人間科学部（吹田キャンパス）において開催されます。大会に向けてご尽力をいただいております。大会実行委員長をはじめとする大阪大学の関係者の皆様方、ならびに学会関係者の皆様方には、この場をお借りして厚くお礼を申し上げます。

今大会のプログラムもまた、たいへん充実した内容になっております。開催校主催シンポジウム（シンポジウム1）ですが、「中国シルクロードにおける社会変容」をテーマにして、遊牧民やオアシス民の社会、およびそれらを取り巻く国際関係などについて、ご報告と討論をいただけることになっております。また、学会主催シンポジウム（シンポジウム2）では、現代中国の資本・労働・環境・市民社会・宗教・民族などに焦点が当てられ、その越境的社会圏の実態を踏まえた上で、生成する社会的現実と、そこでの課題と展

望が提起されるものと期待されます。さらに、自由報告部会ですが、30報告ほどが予定されており、過去最高の規模となります。参加者の皆様と一体となった、活発な議論が交わされるものと楽しみにしております。

日中社会学会のこれまでの軌跡は、今日の研究活動の盛況に現れていると思います。それもひとえに、地道な人間的交流の積み重ねと、そのなかで編み上げてきた信頼関係に根付くものでしょう。一朝一夕にできるものではありません。昨今の地政学的情勢や感情的潮流を目の当たりにして、却ってますます、こうした地に足ついた学术交流の場があることへの感謝の気持ちが高まるとともに、この貴重な機会を末永く継承していくことへの責任が深まってまいります。

皆様のご参加をお待ちしております。大阪でお目に掛かりましょう。

■第29回大会をお受けするにあたって

第29回大会実行委員長
大谷順子（大阪大学）

第29回大会は、2017年6月3、4日

に、大阪大学人間科学部(吹田キャンパス)において開催されます。わたくしは本学会に入れていただいてからまだ年数も浅い新参加者でございますが、このような機会を与えていただき、また、大会運営準備に当たっては、理事の先生方をはじめ関係者の方々に全面的に準備作業を進めていただき、厚く御礼申し上げます。

大阪大学は、我が国第6番目の帝国大学として1931年に創設されました。2011年に創立80周年を迎えました。しかし、源流はさらに古く遡ります。中でも、大阪大学の原点として緒方洪庵の「適塾」や、大坂の町人文化の象徴「懐徳堂」を引き継いでいます。緒方洪庵が1838年に設立した蘭学塾である適塾は長崎に通じています。本大会が、前回の長崎大会に続いて開催されるのは歴史的流れに想いを馳せたときにも面白く思います。緒方洪庵の弟子や息子を中心として明治新政府により1869年に設立された大阪仮病院や大阪医学校が幾多の変遷を経て、1931年に医学部と理学部の2学部からなる大阪帝国大学が創設されました。司馬遼太郎が長編歴史小説『花神』の冒頭に「『適塾』という、むかし大坂の北船場にあった蘭医学の私塾が、因縁からいえば国立大阪大学の前身ということになっている」と記しています。大阪大学には緒方洪庵の「人のため、世のため、道のため」という精神と大阪府民の学問への思いが受け継がれています。

また、懐徳堂は1724(享保9)年、大坂の尼崎町(現中央区今橋)に創立された町人による町人のための学問所

でした。大店の主人から使用人まで多くの人々が聴講していました。漢字・和学・詩文といった多彩な講義内容と、商用による途中退席を認める自由な学風があり、150年近くも西日本の学問の中心として栄えました。戦前まで誰もが水準の高い学問を学べる場として親しまれましたが、戦災で講堂は焼失しました。戦後、本学に新しく法文学部が加わる際に、戦火を免れた蔵書類が「懐徳堂文庫」として寄贈されたことにより、大坂の町に息づいたこの独創的な学問と思想・文化を継承することとなりました。大阪大学の文系学部の精神的源流と位置づけられています。2007年10月1日、大阪大学と大阪外国語大学が統合して、新たな大阪大学が誕生しました。大阪外国語大学は、1921(大正10)年に、大阪上本町の地に大阪外国語学校として創立され、以後、外国語教育・研究の西の雄として大きく発展するとともに、司馬遼太郎などの著名な卒業生を輩出してきました。大阪外国語学校の設立には、大阪の実業家・林蝶子女史の「大阪に国際人を育てる学校を」という熱意と篤志の下、私財を政府に寄附して実現したという経緯があります。旧帝大の中で上からの官令でなく下からの運動で設立されたのは大阪だけであることも司馬遼太郎が記していますが、こういう点でも大阪外国語大学の設立の経緯は大阪帝国大学の設立と極めて似通ったいきさつがあります。両大学が統合して北摂の地に3つのキャンパスを持つ学生数も日本最大の国立大学となりました。大阪大学において中国関係の研究を行っている部局は複数にまたがっており

ますが、開催地である大阪大学人間科学部は、本学会の首藤明和会長の出身大学であり、また、第28回長崎大会において記念シンポジウムも開催された中日社会学学会初代会長である中国社会科学院の羅紅光先生が博士の学位を取得された母校でもあります。羅先生には、さる2017年1月30日に大阪大学よりGlobal Alumni Fellow (GAF)の称号が授与され、この人間科学研究科でもGAF授与記念として人類学セミナー第43回(大阪大学東アジアセンター共催)「人類学における対話」としてご講演いただきました。

吹田キャンパスの横には、万博記念公園および国立民族博物館があります。また、大阪大学箕面キャンパス(旧大阪外国語大学)には、大阪大学付属図書館外国学図書館があり、館内には石濱文庫があります。東洋学者だった石濱純太郎氏のコレクションです。遠方よりお越しの方はこの機会にぜひこちらにも足を延ばしていただければと思います。

もともと、わたくしが大阪大学東アジアセンター(海外拠点上海オフィス)のセンター長を兼任してきたことから、上海での開催も検討されましたが、実際の運営の都合などを考慮して、こうして大阪大学において開催される運びとなりました。上海開催も大阪開催もそれなりに長所短所がありますが、今回はやはり大阪で開催するということで良かったように思います。中日社会学学会専門委員会事務局長の周潔先生も1年間、愛知大学にいらっしゃる時期と重なり、ご出席くださいます。他にも海外からの参加申し込みがありまし

た。また、国内の院生からの自由報告申し込み数も増えたようです。

本大会では、参加される皆さま、「忘年交」・「忘形交」で交流のひとつがよい機会となることを願いつつ、みなさまの参加を十数名の大学院生(中国や周辺国からの留学生を含め)が、なんだかお祭りの準備の様相ですが、皆でともに開催校としてお待ちしております。

■開催校企画シンポジウム

「中国シルクロードにおける社会変容」のご案内

第29回大会実行委員長
大谷順子(大阪大学)

開催校企画シンポジウムは、「中国シルクロードにおける社会変容」として、企画いたしました。日本学術振興会科学研究費・基盤研究(B)・研究課題「19～20世紀中央ユーラシアにおける越境と新疆ムスリム社会の文化変容に関する研究」(代表者:新免康)との共催として開催いたします。

大谷順子(大阪大学教授)

「シルクロードの開発政策

— 一带一路・上海協力機構」

新免康先生(中央大学教授)、

「シルクロードのマザール

— 聖廟文化」

森川哲雄先生(九州大学名誉教授)

「シルクロードの遊牧民

— 一定住問題」

リズワン・アブリミティ先生（新疆大学准教授・平成 29 年度大阪大学外国人招聘研究員（日本学術振興会外国人招聘研究員））

「シルクロードのオアシス民
—地域コミュニティー—」

がそれぞれ報告を予定しています。

これは、2006 から 2008 年にかけて前任校において九州大学教育研究プログラム・研究拠点形成プロジェクト（P&P プロジェクト）アジア総合研究「アジア地域における人間の安全保障の観点による社会開発の新たなフレームワークの研究」（代表者：大谷順子）、さらに展開させた科学研究費・基盤研究（B）・研究課題「現代中央アジア地域における社会開発に関する調査研究」（代表：大谷順子）のメンバーを中心に、10 年来、あるいはもっとそれ以前からそれぞれの関わりの中で考えてきたところを報告することになります。上記の研究成果物である『人間の安全保障と中央アジア』花書院、2010 年にも森川先生、リズワン先生、大谷が執筆していますので、ご紹介させていただきます。さらに、『中国のムスリムを知るための 60 章』中国ムスリム研究会編 明石書店、2012 年において、編者を務められた新免康先生と、木村自先生（立教大学）に討論をお願いしています。木村先生は、大阪大学外国語学部中国語卒、大阪大学にて人間科学博士の学位を取得後、助教としてご活躍されていたので、今回は、里帰りをさせていただく機会ともなっています。現在の世界情勢では、なかなか現地調査も簡単には行けない緊張感のある時

代となっておりますが、長年の蓄積を踏まえて、それぞれの立場から見える視野から意義のある議論が交わされ、理解を深めて、世界の平和と繁栄に貢献できる展望が示されることを期待したいと思います。

■学会企画シンポジウム

「現代中国をめぐる越境的社会圏の
輻湊：資本・労働・環境・市民社会・
宗教・民族」のご案内
浅野慎一（大会担当理事）

昨年度の大会シンポジウム（開催校企画）の共通論題は「越境を考える — その課題と可能性」でした。本年度はこれをふまえ、現代中国をめぐる展開する越境的な社会圏の実態、およびその相互関連がもつ社会的意義について、さらに多角的に議論したいと思います。

現代の世界において中国のプレゼンスは、政治・経済・社会・文化・環境等、あらゆる分野でますます高まりつつあります。しかもそれは単にネイションとしての中国の発展や矛盾の深化にとどまらず、まさに中国がグローバルな世界社会における巨大な「極」の一つとなり、求心性と遠心性のホットスポットとなっていることを意味しています。

本シンポジウムでは、このような現代中国を舞台として展開する越境的な社会圏の実態を、①労働・経済、②環境・市民社会、そして③宗教・民族等の諸領域で検証し、しかもそれらが相互にいかに関連しあい、または異質性や対立を孕み、いかなる方向に展開しつつあるのかを議論したいと考えています。

極めてスケールの大きなテーマではありますが、同時に地に足のつい

たローカルな実証研究や実践的取り組みを十分にふまえ、いわば具体的現実に密着した「虫の眼」と俯瞰的な「鳥の眼」、そして見逃されがちな周延も含めて本質的な論点に焦点を当てる「魚の眼」をすべて総動員するような議論ができればと、やや贅沢な期待をしています。

報告者は、①四半世紀にわたって山西省の黄土高原で緑化事業に取り組んでこられた高見邦雄先生(NPO法人・緑の地球ネットワーク)、②『ノマド化する宗教、浮遊する共同性』等の御著作で宗教的ダイナミズムを研究されてきた滝澤克彦先生(長崎大学)、③関西で低所得層を含む新華僑の経済活動や就労についてディープな調査研究を進めておられる陸麗君先生(大阪市立大学・同志社大学)にお願いしました。討論者は、水野博達先生(大阪市立大学)と林梅先生(関西学院大学)に御担当いただきます。

多数の会員各位の御参加と積極的な討論を、何卒よろしくお願い申し上げます。

■自由報告のセッション紹介

浅野慎一(大会担当理事)

本年度の大会では、33本の自由報告がなされます。本学会の自由報告は、ここ数年増加傾向を辿ってきましたが、本年度は昨年度に比べても1.5倍の急増です。報告のテーマも極めて多岐にわたります。これをふまえ、10の部会を設けました。

各部会の主なテーマは、次の通りです。

セッションA：現代中国における高齢者の福祉・扶養・支援

セッションB：新疆ウイグルにおける環境・言語・アイデンティティ

セッションC：近現代の中国にお

ける社会変動と社会史

セッションD：現代中国の家族・世代・ジェンダー

セッションE：

現代中国の医療・保健・食の安全

セッションF：

境するエスニシティとナショナリズム

セッションG：文化的表現と読解の諸相

セッションH：学校・教育・留学にみる現代中国・中国人

セッションI：現代中国における労働と技術

セッションJ：現代中国における都市と農村、地域コミュニティ

詳しくはプログラムを御参照ください。

会員各位の積極的なご参加と討論、何卒よろしくお願い致します。

日中社会学会第 29 回大会プログラム

開催日：2017年6月3日、4日

会場：大阪大学吹田キャンパス

大学院人間科学研究科・人間科学部 本館北棟

(注) プログラムは一部変更となる可能性があります。

6/3(土)		6/4(日)	
		9:00	受付
		9:15	自由報告Ⅱ
		1030	(session D, E, F)
		1040	自由報告Ⅲ
			(session G, H, I)
1100	理事会 -1230		
1200	受付開始	1220	
		1220	理事会
1300	開会式		
1305	自由報告Ⅰ	1325	
1430	(session A, B, C)		
1445	開催校企画シンポジウム	1330	学会企画シンポジウム
			「現代中国をめぐる越境的社会圏の輻輳
			—資本・労働・環境・市民社会・宗教・
			民族—」
		1600	
		1600	閉会式
1715			
1725	総会		
1825			
1830	懇親会		
2000	(インターナショナルカフェ)		

当日会場にて配布される資料でご確認ください

6月3日(土)

12:00～ 受付開始

<本館3階エレベーターホール>

大会参加費：会員・非会員とも 2,000円 (ただし学生は1,000円)

11:00～12:30 理事会

<セミナー室42 (M445)>

13:00～13:05 開会式

<キャノピーホール (第51講義室) >

開催校挨拶：大谷順子（大阪大学）

会長 挨拶：首藤明和（長崎大学）

13:05～14:30 自由報告（I）

セッションA

<第41講義室（M441, 443）>

司会：松木孝文（大同大学）

「四川大地震後高齢者向け福祉施設に入居者の生活満足度に関する研究」李婧（大阪大学大学院）

「中国における高齢者福祉の課題研究：西安市の高齢者扶養の紛争を素材に」馮怡（佛教大学大学院）

「アクティブ・エイジングの日中高齢者比較研究」賀玉辰（大阪大学大学院）

セッションB

<第44講義室（M442, 444）>

司会：江口伸吾（島根県立大学）

「中国新疆ウイグル自治区における地方環境立法に関する研究」阿迪拉庫爾班（中国新疆ウイグル自治区高級裁判院裁判官教育センター）

「南新疆と北新疆におけるウイグル人女性の言語使用状況の差異について」希日娜依买苏提（新疆師範大学言語学院）

「新疆ウイグル自治区の漢語教育に見る言語とアイデンティティの関係」新井凜子（大阪大学大学院）

セッションC

<第31講義室（M341, 343）>

司会：坂部晶子（名古屋大学）

「満州における日本人経営中国語新聞関連資料の研究：日系中国語新聞研究の新たな可能性をめぐって」華京碩（龍谷大学大学院）

「中国残留日本人の生成過程にみる歴史的時空」浅野慎一（神戸大学）

「中国初期合作社における成員資格の理念と表象：華洋義賑会の合作事業を事例に」穂山新（筑波大学）

セッションD

<第32講義室（M347）>

司会：中村圭（同志社大学）

「中国における消費社会の若者文化の特徴についての考察」張少君（首都大学）

「在日中国人家庭におけるアイデンティティの継承について」小柴裕子（龍谷大学）

「香港および上海在住の独身女性の家族に関する概念」ナカノ リン（香港中文大学）

14:45～17:15 開催校企画シンポジウム

<キャノピーホール（第51講義室）>

「中国シルクロードにおける社会変容」

発表者 大谷順子（大阪大学）「シルクロードの開発政策：一带一路・上海機構」

新免康（中央大学）「シルクロードのマザールー聖廟文化」

森川哲雄（九州大学名誉教授）「シルクロードの遊牧民一定住問題」

リズワン・アブリミティ（新疆大学・大阪大学）「シルクロードのオアシス民一地域コミュニティ」

討論者：木村自（立教大学）

新免康（中央大学）

司会：大谷順子（大阪大学）

共催：日本学術振興会科学研究費・基盤研究（B）・研究課題「19～20世紀中央ユーラシアにおける越境と新疆ムスリム社会の文化変容に関する研究」（代表者：新免康）

17:25～18:25 総会 <キャノピーホール（第51講義室）>

18:30～20:00 懇親会 <インターナショナルカフェ（1階）>
懇親会費：学生 3,000円、一般 4,000円

6月4日(日)

9:00～ 受付開始 <本館3階エレベーターホール>

9:15～10:30 自由報告（II）
セッションE <第31講義室（M341, 343）>

司会：南誠（長崎大学）

「中国広西チワン自治区の幼稚園における保健活動の実態に関する調査」鍾寧（大阪大学大学院）

「中国帰国者の医療受診にまつわる問題について」小笠原理恵（大阪大学大学院）

「中国における地溝油に関する食品安全問題」 聂海松・陳創斌（東京農工大学）

セッションF <第32講義室（M347）>

司会：浅野慎一（神戸大学）

「神戸華僑の社会関係と神戸中華同文学校」門永美保（京都女子大学）

「『自民族中心主義』の再考：海外における日系・中国系企業の比較を中心に」朱藝（筑波大学）

「海外のポピュラー文化の影響」石井健一（筑波大学）

セッションG <第41講義室（M441, 443）>

司会：調整中

「私的ドキュメンタリーから読み取る「知日」の文化実践：『私たちの留学生活—日本にいる日々』（1996）の物語の構造分析」祝方悦

「日本人学生から見た『西遊記』：物語の細部から反映される文化の相違点」李末（大分大学）

「中国の災害博物館における展示物表現に対する考察」高欣（大阪大学大学院）

10:40～12:20 自由報告（III）
セッションH <第31講義室（M341, 343）>

司会：永野武（松山大学）

「中国四川省の小中学校における防災教育：学校と外部機関の提携から見る」陳逸璇（大阪大学大学院）

「規律・テクノロジー・学校：日本・中国大陸・台湾のいじめ対策の比較的考察」 姚逸葦(京都大学)

「若年女性の進学選択に関連する要因について：80 後生まれの中国人女性のインタビュー調査を通して」 田姫(御茶の水女子大学大学院)

「外国人留学生の東京・地方間の移動に関する一考察」 若杉英治(東京福祉大学)

セッション I

<第 32 講義室 (M3 4 7)>

司会：鈴木未来(新潟医療福祉大学)

「中国の人的資源管理における労働者の高度な職業能力の育成」 周楊(常磐大学大学院)

「仕事と組織に対する女性ソフトウェア技術者の思い：日中比較」 夏世明(同志社大学大学院)

「中国の第二世代農民工就業現状と権利保障に関する考察：北京民営企業を中心に」 曹家寧(九州大学)

「中国におけるエネルギー転換と技術」 尾形清一(京都大学)・松木孝文(大同大学)

セッション J

<第 41 講義室 (M4 4 1, 4 4 3)>

司会：李妍焱(駒澤大学)

「地方社会にみる中国東南部の地域間人口移動：広東省潮州地域を中心に」 連興楨(神戸大学)

「新型農村社区移転と村の消失過程にみる村人の忍従と抵抗の論理：中国天津市武清区 X 村を事例に」 閻美芳(宇都宮大学)

「グローバル化における中国牧畜地域の社会変容：内モンゴル自治区の牧民の生活を中心に」 哈斯額爾敦(内モンゴル大学民族学・社会学学院)

「中国新型都市計画と都市農村戸籍区分の廃止問題」 高橋明善(東京農工大学名誉教授)

12:30~13:25 理事会

<セミナー室 4 2 (M4 4 5)>

13:30~16:00 学会企画シンポジウム

<キャノピーホール (第 5 1 講義室)>

「現代中国をめぐる越境的社会圏の輻輳：資本・労働・環境・市民社会・宗教・民族」

発表者：陸麗君(大阪市立大学・同志社大学) 「越境と起業：大阪インナーシティにおける華僑経営者たちと地域コミュニティー(仮)」

高見邦雄(認定 NPO 法人・緑の地球ネットワーク) 「相互理解が深まる過程：草の根緑化協力 25 年の歩み」

滝澤克彦(長崎大学) 「宗教の越境における民族的文脈(仮)」

討論者：水野博達(大阪市立大学)

林梅(関西学院大学)

司会：浅野慎一(神戸大学)

16:00~ 閉会式

<キャノピーホール (第 5 1 講義室)>

大会担当理事挨拶：浅野慎一(神戸大学)

大会実行委員長挨拶：大谷順子(大阪大学)

次年度大会開催校挨拶

■大会出欠確認のお願い

今大会より、出欠のご予定は、従来の往復葉書に替えて、web上で入力していただく方法をとることとなりました。5月10日以降に学会HPに特設ページが設置されますので、そこから入力をお願いいたします(メールマガジンでも入力のご案内を再度いたします)。パスワードが必要となりますが、HPに掲載されている学会ニューズレター閲覧の際のものと同じです。ご不明の場合は、事務局までお問い合わせください。開催校の準備のため、5月20日(土)までにご回答をお願いします。

■資料配布コーナー、書籍販売コーナー、研究機関紹介コーナーの設置のお知らせ

大会期間中に、上記のコーナーを設置いたします。会員の皆様の研究交流の場としてご利用下さい。場所は、当日、受付にお問い合わせください。なお、書籍販売にあたっては、受付での代金領収、領収書発行はいたしかねますので、予めご了承下さいますようお願いいたします。

■ 大会開催校の連絡先

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 1-2 大阪大学大学院人間科学研究科共生学系
グローバル共生学講座地域創生論 大谷順子
E-mail: otani @ hus.osaka-u.ac.jp
Tel/Fax: 06-6879-8084 (研究室直通)

■ 大会日程及び開催場所

日程：2017年6月3日(土)、6月4日(日)
場所：大阪大学人間科学部

■ 会場(大阪大学吹田キャンパス)までの案内

学会で用意した駐車場はございませんので、なるべく公共交通機関をご利用の上お越しください。

モノレール：

○大阪モノレール

阪大病院前駅下車 徒歩約5分

バス：

○阪急バス

- ・千里中央駅発「阪大本部前行」、「茨木美穂ヶ丘行」
- ・北千里駅発「阪大病院線」

※千里中央発、北千里経由もあります。ただし、千里中央からのバス(6番乗り場)は、週末は便数が少なくなりますので、阪急バスの時刻表

(<http://bus.hankyu.co.jp/rosen/1109.html>)を確認してください。

○近鉄バス

- ・阪急茨木市駅発「阪大本部前行」(JR茨木駅経由)

いずれも、阪大医学部前または阪大本部前下車徒歩約5分。

電車：

○阪急電車千里線

北千里駅(終点)下車 東へ徒歩 約30分

大阪大学へのアクセスの詳細は、大学ホームページをご覧ください。

(<http://www.osaka-u.ac.jp/ja/access/accessmap.html>)

会場（大阪大学人間科学部）のアクセスマップ



ご注意！！

人間科学学部本館正面玄関のみ開錠しています。その他の入り口は施錠されています。万博外周道路沿いの正門からは大学構内に入れません。お車でお越しの方は、医学部附属病院側の入り口からお入りください。

■ 宿泊施設の案内

大阪大学吹田キャンパス周辺のホテルは、かなり限られます。北大阪急行（千里中央駅と江坂駅の間）と地下鉄御堂筋線（江坂駅と新大阪駅の間）沿線には、数多くのホテルがあります。特に江坂駅周辺です。各自で早目に手配していただきますようお願いいたします。

おすすめ

会場まで交通機関を乗り継がずに、バスあるいはモノレールだけを利用して来ることが可能なホテル

- ホテル阪急エキスポパーク（モノレール駅万博記念公園）

<https://www.hankyu-hotel.com/hotel/hhexpopark/index.html>

- 千里阪急ホテル（千里中央）

<https://www.hankyu-hotel.com/hotel/senrihh/index.html>

- ホテルクレストいばらき（JR 茨木駅）
- ホテルクレストディオ（JR 茨木駅）
- セントラル茨木ホテル（JR 茨木駅）

● 懇親会

場所：人間科学部本館 1 階のインター
ナショナルカフェ

費用：4000 円（学生 3000 円）

■ 大阪大学では、平成 29 年 4 月 1
日からキャンパス内全面禁煙活動
を実施しています。

**大阪大学スタッフ一同で皆様のご来
阪、ご参加を心よりお待ちしております。**

■ 新入会員の声

李 根忠(リ コンチュウ)

所属：南京三江大学経済学部

研究領域：経済社会学

自己紹介：会員の皆様、はじめまして。
この度、新たに入会させていただきま
いた李根忠と申します。2015 年 3 月
に大阪産業大学大学院で博士後期単位
取得して退学してから、もうすぐ 2 年
になります。留学期間で中国における
農民工の就業や不平等などの問題につ
いて、研究しました。帰国したあとに、
留学時代に学んだものを生かして、中
国経済の生産方式転換につれて、労働
力の就職問題やマクロ経済政策に強い
関心を持っており、労働力の専門知識
を見つけることと、内需拡大を促進す
ることについて研究を進んでいます。
これから、ニュー・ノーマル（「新常
態」）が続く中国では、生産方式の転
換をとめない、労働力の再就職援助シ
ステムの構築や内需拡大の問題につ
いて研究したいと思っております。今後、
日中社会学会の皆様からより多くご刺
激とご教示をいただき、もっと広い視

点から就職制度の問題、中国経済体制
移行のことを考えてみたいと思います。
どうぞよろしくお願いいたします。

張 少君(チョウ ショウクン)

所属：首都大学東京大学院 人文科学
研究科 社会学教室 博士後期課程

研究領域：文化社会学、若者研究

自己紹介：欧米・日本・中国の若者研
究と近代社会理論の成果をもとに、現
在の中国の若者文化における自己表出
性（自分らしさの強調、ライフスタイル
の選択など）に関する研究をしていま
す。中国における若者文化と自己表出
の関係性、自己表出に基づく若者の
コミュニケーション（関係性）の理論
的把握を目指しています。ご指導、ご
鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

木下 光弘(キノシタ ミツヒロ)

所属：敬和学園大学人文学部国際文化
学科

研究領域：民族問題

自己紹介：木下光弘と申します。前職
は高校で社会科の教員をしておりまし
たが、現在、新潟県にある敬和学園大
学にて専任講師を務めております。内
モンゴルなど「周縁」地域の民族問題
や国家、民族の在り方に関心を持って
います。

姚 逸葦(ヤオ イウエ)

所属：日本・京都大学文学研究科社会
学研究室

研究領域：教育社会学、比較社会学

自己紹介：はじめまして、京都大学の
姚逸葦と申します。現在、主に「学校
におけるいじめ」という現象について、

日本、中国大陸、台湾の比較研究を行っています。異なる社会的背景のもとで、「いじめ」という概念のフレーミングや、いじめ現象の特徴と対策も異なる様相を呈しています。比較研究を通じて、ある社会にあたりまえのことと思われた現象を相対視し、いじめ問題を解決するためにより多くの可能性を見つけようとしています。これから、日中社会学会の皆様からご教示をいただきたいと思えます。どうぞ、よろしくお願い致します。

肖 男 (ショウ ナン)

所属：広島大学大学院 国際協力研究科会員

研究領域：文化人類学、文化遺産保護、市民運動、NGO、日中翻訳比較研究

自己紹介：広島大学国際協力研究科の博士後期課程在籍しております。中国の文化遺産保護における市民運動に関心を持ち、多角度から考えることに取り組んでいます。

李 之易 (リ チーイ)

所属：名古屋大学国際開発研究科国際コミュニケーション専攻後期課程

研究領域：中国の伝統ムスリムコミュニティから大都市に移住する回族ムスリム女性に関する人類学的研究

自己紹介：名古屋大学国際開発研究科、国際コミュニケーション専攻後期課程在学の李之易と申します。現在、中国義烏市における回族女性を研究対象にし、女性ムスリムとしてのジェンダー役割を現代社会においていかに実現するかを考察しています。

夏 世明 (カ セイメイ)

所属：同志社大学総合政策科学研究科
研究領域：日本の女性労働と家族、日本の女性研究者・技術者のキャリア、在中日系企業の人的資源管理、日本・台湾・中国大陸の事業承継における女性の役割に関する比較研究

自己紹介：同志社大学に在籍している夏世明(カ セイメイ)です。中国の安徽省生まれで、湖南省に5年間住んだ後に2008年に来日しました。日本女性研究者・技術者のキャリアに関して勉強をしているところで、将来はこれを日中比較研究に繋げていきたいと考えております。

馮 怡 (ヒョウ イ)

所属：佛教大学 社会福祉学研究科(博士後期課程)

研究領域：東アジア高齢者福祉政策比較研究、中国の介護家族への支援

自己紹介：佛教大学社会福祉学研究科の馮怡と申します。現在、東アジア、特に中国・日本・韓国の高齢者福祉政策の研究に取り組んでいます。広い世界に目を向け、自分の研究で人間や社会に対する理解が一層深くなるように頑張ります。

小柴 裕子 (コシバ ユウコ)

所属：龍谷大学

研究領域：日本語教育 多文化共生

自己紹介：大学で日本語教育に携わりながら、地域の多文化共生に関する課題に関心を持っております。よろしくお願いたします。

CHEN CHUANGBIN (陳創斌 チン ソウビ)

ン)

所属：東京農工大学大学院国際環境農
学専攻会員区分：学生

研究領域：中国における食品安全問題 自
己紹介：今後は、日本で中国に関する
食品安全問題を研究して、日本の先進
技術を利用して中国の食品安全問題を
解決したいです。いろいろな専門的知
識を勉強することにより、自分の能力
を發揮して日中関係と知的な面での貢
献をしたいです。

坪田 光平 (ツボタ コウヘイ)

所属：職業能力開発総合大学校

研究領域：中国系ニューカマー第二世
代、トランスナショナリズム

自己紹介：日本社会に育つ中国系ニュー
カマー第二世代の研究に取り組んで
います。

親世代の出身階層差に注意を払い、家
族の教育戦略や子世代の学業・地位達
成との関
連をトランスナショナルな視角からア
プローチしています。

■事務局からのお願い

メールマガジンは届いています
か？

本学会では、google グループによる
メーリングリストによる広報を行って
います。事務局へご登録いただいたメ
ールアドレスへ、不定期に「日中社会
学会メールマガジン」が配信されます。
メールマガジンが届いていない方や未
登録の方、また、メールアドレスに変
更のあった場合は、事務局までお知ら
せください。

情報をお寄せください

会員の皆様で、出版物のご案内や研
究会・シンポジウムの開催のご案内な
どがございましたら、事務局まで情報
をお寄せください。

会費納入のお願い

学会活動は皆さまからの会費で支え
られております。会費納入をよろしく
お願いいたします。一般会員 6000 円、
学生会員 4000 円です。

大会にご参加の方々には、当日受付
で 2017 年度の会費をいただきます。

日中社会学会・郵便口座

口座記号番号：00140-9-161801 加入

者名：日中社会学会

加入者名：日中社会学会

*インターネットバンキング等、銀行
からのお振込みの場合は、店名、口座
番号は下記になります。

店名：〇一九店 店番：019 口座番
号：0161801

*海外からは paypal での納入も可能
になりました。詳細につきましては、
事務局までお問い合わせください。

異動、住所変更の際はご一報を！

新年度となり、異動、住所変更のあ
った方は、新しいご所属、メールアド
レス、郵便物送付先等の情報を事務局
までご連絡くださいますようお願いい
たします。

日中社会学会ニューズレター No. 77

編 集：松木孝文（大同大学）

発行：日中社会学会事務局

〒186-8601 東京都国立市中2-1

一橋大学・南裕子研究室

info@japan-china-sociology.org

tel: 042-580-8810 (研究室直通)

fax: 042-580-8799 (共同研究室の

ため南宛を明記してください)

○日中社会学会・郵便口座

口座記号番号：00140-9-161801

加入者名：日中社会学会

○日中社会学会・公式HP

<http://www.japan-china-sociology.org/>

発行日：2017年5月